

●京の七夕 吉祥院商店街へ竹笹届ける 28日 27日に引き続き28日には南区の吉祥院商店街からの要請にこたえて笹竹123本を届けました。世話役の出迎えを受けて吉祥院小学校に回り、校舎内の階段の踊り場に納品しました。子どもたちが飾りつけをしてくれるとのことでした。2日にわたって切り出しや梱包にご協力いただいた皆さんありがとうございました。7月末には深草商店街 丹波橋繁栄会 8月には松原京極商店街 京都三条商店街 新京極商店街への納品が予定されています。

●近畿子どもの水辺幹事会 28日 天満 この10年間毎年開催され10回にわたって発表と交流を通じて若者や子ども達の育成に大きな成果を上げてきました。同時に河川環境に取り組む皆さんの交流の場でもありました。河川協会の助成金が打ち切られて、開催が不可能となりました。形式的な継続を願って組織を残すことになって、初めての実行委員会が開催され、各府県の状況報告が行われました。出席者のほとんどが熱心な継続を願うみなさんで、熱意あふれる会議でした。京都府は三川合流に新施設の実現があって、ここを拠点に取り組む京都府子どもの水辺について説明を行いました。開催に関心を持つ人々から、ぜひ参加したいとの声がありました。府県単位での開催を方針にして、進行形は京都府以外に大阪府も取り組んでおられるようでした。

●オオムラサキ観察会7月1日10時より里山農園教育棟で実施(第1プログラム) 前夜から雨が降り続き、開催はもとより雨天だとオオムラサキの飛翔を望むことはできないと気をもみました。雨は朝から止んで、10時はいい天気となり、観察には手ごろな日和に変わり出現の期待が膨らみました。約2時間、緑の木々や大空を根気よく眺めました。出席者11名の皆さんは根気よく出現を待ちました。残念ながら大きく期待していましたが、遂に一匹も確認できず空振りとなりました。一昨年までは、かなり高い場所で樹液を出していたコナラがナラ枯れのために樹液がなくなり環境が変わり農園付近で食物の供給が困難になったように見えます。そうした原因で成虫の確認を難しくしているようです。しかし、産卵や幼虫のために必要な榎は20本を超える密集地であり、冬の確認調査ではかなりの越冬が確認されています。この豊かな榎林はオオムラサキの生育には必須条件です。時期の条件はさらに豊かになっていると思われる。しばらくアンバランスの状況が農園付近に続くのではないかと思います。

オオムラサキの調査を継続されている金田さんは、何とか成虫の確認ができるようにと工夫をこらしていただいています。期待しています。ところでタマムシの羽がこの付近にかなり散乱していることに気づき、120枚ほどが拾い集められました。この榎林に設置した観察棟では、玉虫の飛翔が常に確認されます。タマムシの生育にも適した条件を持っているのではないかと思います。飛び回る玉虫を食べたとされる鳥の糞が落ちているのではないかと推測されていました。きれいな糞でした。この話をお聞きして「タマムシの厨子」に話題が移りました。

●カスミサンショウウオ観察会 (1日第2プログラム) 午後からカスミサンショウウオの調査観察に移動しました。上中下の三つのため池があって、下の池で5匹が確認できました。中池は捕獲が難しく、調査ができませんでした。上池では2匹の成虫を捕獲確認しました。それぞれには、まだエラがついて水中生活の継続が可能でした。まもなくえらが消えると陸上生活に入ることになります。すると発見はかなり困難になります。水中での確認の最後のチャンスがここしばらくとの様子です。今必要なことは陸上に上がって生育する場所が落ち葉や枯れ木の下が住処になるとのことで、そうした場所づくりが必要で、松井先生の話だと1000個めくっても一匹の発見になる確立だそうです。相当数多く設置することが必要となります。過日伐採したコナラの割り木を持ち込んで、生育環境づくりに再利用を考えています。

●ヤブカンゾウ大群生地再確認 (1日第3プログラム) 数日前24日の植物観察会で確認されたのが思いもよらないヤブカンゾウの大群生地の出現でした。歩けば足の踏み場もないほどしっかり芽を出し、つぼみを形作っているとのことでした。報告ではこれほどの大群生はこれまで見たことがないほどの状況で、満開の時期を想像するだけで胸がワクワクすると報告されていました。木津川の堤防は砂ででき

た堤防なので、日本の河川堤防で最も弱いものとされているとのことで、堤防強化工事が実行されることになり、最初のころに実行された場所です。調査を続けている私たちも、なかなか出会うことなく初めてこのような状況に出会うことになりました。

●**カヤネズミの巣確認 (1日第4プログラム)** 木津川の河川敷でカヤネズミの営巣跡が見つかったとの報告が入りました。早速再確認に出かけました。場所は目印の上流とのことでしたが、見つからず下流部ではないかと探索すると見事に発見できました。一週間前ですと青草が束ねられていて真新しいとのことでした、すっかり枯れていて巣跡のようでした。それにしてかなり人目に付きやすい場所でした。

●**カスミサンショウウオの生息はすごい生育環境を実証** 1日の7匹も一度に確認できたことは、松井先生のお話を参考にした場合、かなり苦勞しなければならぬことになるのですが、小さな池の周囲でこれだけ短時間に発見できることは、精密に調査するとかなり多くのものが生育していると容易に推測できます。この場所はまことに貴重で、重要な場所となります。京田辺市の宝物といっても過言ではないということになります。指導をいただいてきた桜谷先生のお話では、できるだけ一週間に一度は水温と水量を測定して周囲の状況を記録することが必要だとお話されました。成果記録を多くの人々に発信して、取り組みを伝えることが保存運動を盛り上げる基礎になる。データは貴重な証拠として説得力を持つものです。少なくとも週刊ニュースに掲載されることから開始されてはいかがですかとご提案をいただきました。生き物好きな皆様、あるいは関心を持っていただいている皆様のご協力をお願いいたします。ご連絡くださいお待ちしております。

●**夏原グラント現地視察に向けた取り組みと草刈り** 玉切り 20号地の部分は玉切り完了集積もできる。本日と明日の二日間ですが、可能な限り農園周囲の草刈りを実施し、視察とオオムラサキ観察や夜の生き物調べの安全確保として実行したいものです。農産物の収穫時の安全対策としてマムシ被害を防ぐためにも草刈りの役割は重要です。作物の生育(肥料の効果力アップ)にとっても雑草の繁茂は許せないものです。

●**8日の予定** 9時30分夏原現地視察員と桜谷先生新田辺駅到着 10時里山農園でオオムラサキ観察会と視察の開始 10時20分視察と観察会を同時に開催 11時40分二つの取り組みのまとめ、12時解散の予定です 視察には大村副理事長、森島理事、播川理事長さんに説明役をお願いしています。オオムラサキの観察会は桜谷先生と深田前理事長さんが進行説明をお願いします。その他の出席者は銘々分かれてご参加ください。

●**カスミサンショウウオ現地視察会** 15日 10時普賢寺小学校前に集合 12時解散 ご招待者 京都府自然環境課 京田辺市環境課など希少生物関係者を招き、現地視察を行い、保存のための方策案を見つけ出すために開催します。

●**夜の生き物調べ(15日)参加者募集中** 誘い合ってご参加ください 募集人数 10組 お泊り調査会(集合時間は後日決定) 里山農園・教育棟 参加費無料 夕食朝食(各自準備) 16日 9時解散

●**第2回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 参加者募集中** 往復はがきで住所氏名年齢連絡先参加人数 保護者名を記入 里山の会まで

参加資格は問いません 50組 世話役係最優先で先着受付です。定員になり次第締め切ります 開催場所 山城大橋東詰め 水筒 着替え 帽子 水中で脱げない靴 保護者同伴

●**里山の会 朝採り 100円コーナ再開**

ナスビ キウリ ピーマン まもなく人気のトマト出店 8時店開き